

令和2年度 第4回公立大学法人公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨（案）

- 日 時 令和3年3月5日（金） 13:00～14:30
- 場 所 多目的ホール（Webexによるオンライン会議）
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、今井正和委員、田中洋介委員、若原道昭委員、林昭男委員、児嶋祥悟委員、山田憲典委員、山田修平委員、米田裕子委員
[10名/10名]
北野彬子監事、小谷昇監事 [2名/2名]
- 欠席者 なし

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和2年度予算の補正について

事務局から、令和2年度予算の補正について説明があり、原案のとおり承認された。また、併せて今年度から始まった高等教育修学支援制度事業費に係る財源について、当初運営費交付金とされていたが、会計監査法人からの指導により補助金収入へ科目更生を行うと報告があった。

(2) 令和3年度当初予算について

事務局から、令和3年度当初予算について説明があり、原案のとおり承認された。

(3) 令和3年度年度計画について

事務局から、令和3年度年度計画について説明があり、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・入試、就職、海外留学に関する支援については、計画したものをより具現化し、実行するよう検討してほしい。特に海外留学は、コロナ禍で制限されることが予想できるため、学生のためにも就学期間内で何かできることを模索していただきたい。
- 新たな入試体制としては今年度よりアドミッションセンターが設立されるし、就職支援としては就職支援センターがある。ともに教員がセンター長を務め、教職協働で一丸となって取り組んでいく。また、コロナ禍での海外留学については、非常に制限される中ではあるが、オンラインを積極的に活用し取り組んでいる。
- ・学生への就職支援の面では、県内にも中小ではあるが様々な優良企業が活躍しているため、鳥取県商工会連合会と是非連携して、県内企業のPRを実施してほしい。
- 本学としても県内就職率の向上は、課題として認識している。就職支援センターを中心に検討していく。
- ・年度計画の全体像をどのように教職員に下ろし、実施していくのかを示してほしい。
- ・地域イノベーション研究センターは、地域にとって良い研究機関でありながら、非常に動きが見えづらい部分がある。20周年記念事業として県民にPRしてほしい。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学非常勤講師採用選任規程の一部改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学非常勤講師採用選任規程について説明があり、

原案のとおり承認された。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員就業規則等の一部改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学職員就業規則等について説明があり、原案のとおり承認された。

(6) 公立大学法人公立鳥取環境大学の組織改正について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学組織改正について説明があり、原案のとおり承認された。

＜主な意見等＞

・入試広報課が行っていた業務をアドミッションセンターへ移管するという事は、入試広報課としての業務は、広報業務に限定されることが予想されるため、課名の変更が必要ではないか。

→入試を実施するうえでは、地方会場での入試業務や受験生とのやり取りなど、多大な事務作業が存在し、入試広報課としての入試業務が無くなることは考えにくい。アドミッションセンターの設置は、教員をセンター長として置くことで、今まで事務局が担っていた入試業務を、教員と職員が一体となって取り組んでいくという、大学の姿勢を表す意味も含まれている。

(7) アドミッションセンターの設置に係る諸規程の改正について

事務局から、アドミッションセンターの設置に係る諸規程の改正について説明があり、原案のとおり承認された。

3 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学大学院ポリシーについて

事務局から、公立鳥取環境大学大学院ポリシーについて報告があった。

(2) 令和3年度教員の採用・昇任について

事務局から、令和3年度教員の採用・昇任について報告があった。

(3) 令和3年度教学体制について

事務局から、令和3年度教学体制について報告があった。

＜主な意見等＞

・アドミッションセンター長について、今は兼務だが組織として機能させるのであれば、いずれは、常任の教員を置くべきではないか。

→常任すべきかどうかは今後、検討する。今回新設されたアドミッションセンター長として就く矢野教授は、経営学部長との兼務ではあるが、専門の金融学だけではなく、統計・分析にも強い。入試政策を強化する中では、兼務ではあるが適任者である。

・兼務者が多くみられるが、手当の制度はどのようになっているのか。

→兼務しているからと言って、全ての手当を合計支給するわけではない。最も高い役職の手当が適用される。

(4) 大学機関別認証評価評価報告書（案）について

事務局から、大学機関別認証評価評価報告書（案）について報告があった。

(5) コロナ感染防止予防に対する取り組みについて

事務局から、コロナ感染防止予防に対する取り組みについて報告があった。

(6) 新入生サポーター制度の実施結果について

事務局から、新入生サポーター制度の実施結果について報告があった。

(7) 近況報告

事務局から、就職状況及び入試実施状況について近況報告があった。

4 その他

<主な意見等>

- ・ 太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーを使った発電を学内で実施していないのか。また、それらに対する学生の意識はどの程度あるのか。環境について研究する教育機関として、常に先端技術を意識して学びに繋げることが必要ではないか。
- 学内に太陽光パネルを設置し、実験研究棟や教育研究棟の電力の一部をまかなっている。学生の目に触れる、本部棟 1 階の廊下には、発電されている電力量が表示されるメーターを設置しているため、学生としても全くの無関心というわけではないと思うが、体系的に学ぶ機会を設けられていない。
- ・ 環境について研究する教育機関として、太陽光電池や二酸化炭素の削減につながる水素エネルギーなどへの積極的な取組みを期待している。

5 閉会